

鳥居強右衛門勝商公と松永寺

平成27年1月18日 市田白寿会にて

松永寺の開創

青龍山松永寺は、八幡の西明寺五世太室契甫大和尚が元龜4(1573)年3月にお寺開創されたお寺。(長篠・設楽が原の戦いの2年前)

鳥居 強右衛門勝商(とりい すねえもん かつあき)

天文9年(1540年) - 天正3年(1575年)5月16日 享年36歳

現在の松永寺の東隣が鳥居強右衛門の生誕地。幼名を兵藏というが、青少年時代の資料は全くない。農家百姓の子であれば資料や記録などないのが普通である。昔からの聞き伝えでは、「強右衛門は、子供の頃、体が大きく力持ちで人に負けることが嫌いな、負けず嫌いの性格であった。野良仕事も人一倍よく手伝った。また暇を見つけて読み書きにも精を出すという、村一番の評判のよい子であった。

作手亀山城の奥

平貞能に仕えた年齢ははっきりしない。自分から志して奥平の家臣になった。また市田と大崎の境の宮社で草相撲があり、これを見ていた一人の武士が、兵藏に目をつけ、町の料理屋に連れて行き、話をまとめて作手の奥平の家来に取り立てた、との伝承もある。

鳥居強右衛門勝商という名前をと自分でつけたとすれば、自分の体力等に自信があり、難しい字、読み方をするので、よほど読み書きができたと思われる。また他の人が名付けたにしても、とても強靱な精神・体力を見てつけたと思われる。

長篠城を脱出し、今のように靴もない時代、片道約50キロ、川を下り、山に登り、山道を走りつて岡崎まで行き、奥平貞能・そして家康・また信長に長篠城の窮状を訴えた。信長より「同行するように」と伝えられたが、鳥居強右衛門は「この吉報を一刻も早く城内に知らせたい」と長篠へ引き返す。一昼夜のうちに、往復100キロの道を走り、戻ってくる、体力・精神力はすごいものと思われる。

16日早朝、往路と同じ山で狼煙を掲げ、入城を試みるが篠場野で武田軍の兵に捕らえられてしまう。狼煙が上がるたびに城内から上がる歓声を不審に思う包囲中の武田軍は、警戒心を高めていた。

強右衛門への取り調べによって長篠に織田・徳川の援軍が向かっていることを勝頼は知り、一刻も早く長篠城を落とす必要性に迫られた。しかも、援軍の到来を城兵が知れば、城内の士気を高めて一層の抵抗を示し、城を短時日のうちに落とすことが難しくなる。そこで勝頼は、強右衛門ばかりか城兵の助命をも条件として、「援軍は来ない」と、城に向かって叫ぶように命じた。こうすれば、城兵の士気は一気に急落して、城は自落するだろうと考えたのである。強右衛門は勝頼の要求を承諾、長篠城の西岸に、見通しの利く所へ引き立てられた。

ところが、強右衛門はすでに死を覚悟していた。そこで、「援軍は二・三日の内に来る。堅固に守れ」と勝頼が命じた内容とは全く逆のことを城に向かって叫んだのである。これを聞いて、長篠の城兵たちは大いに喜び、士気は盛り上がった。しかし、強右衛門は城から見える篠場野で武田軍によって殺されてしまったのである。

その後の奥平家

貞昌は信長の一字をもらい、「奥平信昌」と名のる。

長篠の戦いの1年後、新城城を作り、家康の長女「亀姫」を嫁に迎える。四男一女あり

家康は自分の長女「亀姫」を嫁にとらせ、子々孫々に至るまで待遇

奥平家は1717年に10万石で中津城主になります。廃藩置県で廃城となる1871年まで奥平家が治めた。

その後の鳥居家

奥平家は鳥居家を代々優遇した。強右衛門の長男・亀千代は、信昌の四男・松平忠明に仕え、強右衛門の子孫は、高名となった強右衛門の通称を代々受け継ぎ、13代強右衛門商次が家老となっているなど、松平家中では厚遇された。

次男 元安は生家である市田の里において代々農業を営み、現在市田に6軒の鳥居家がある。。

鳥居会

明治43年 赤塚山に顕彰碑建立の決定

大正3年 赤塚山 鳥居強右衛門顕彰碑除幕

大正3年 松永寺 鳥居強右衛門公御木像開眼

大正6年 松永寺横 鳥居強右衛門生誕地の標柱が建つ

昭和13年 松永寺境内 北白川宮殿下台臨記念碑除幕

寺部與吉さんは鳥居強右衛門顕彰碑建碑また鳥居会のために一生懸命尽くし、多くの書類を整理する。特に鳥居本家16代鳥居徳厚氏とは親交を重ね多くの書簡が残っている。その後早川次末さんが引き継ぎ、現在その書類を松永寺で大切に保管している。

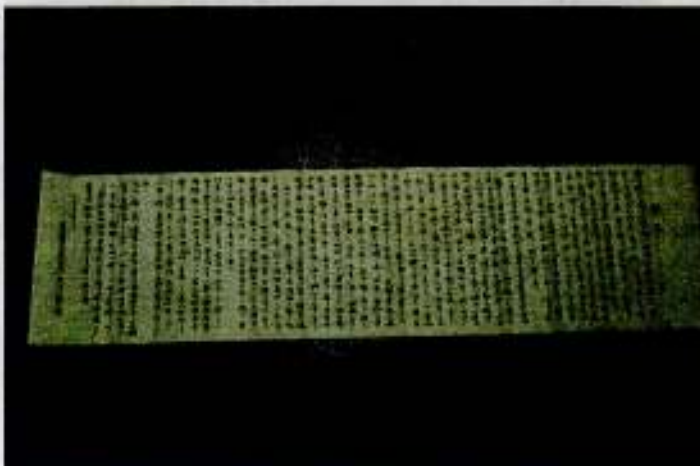
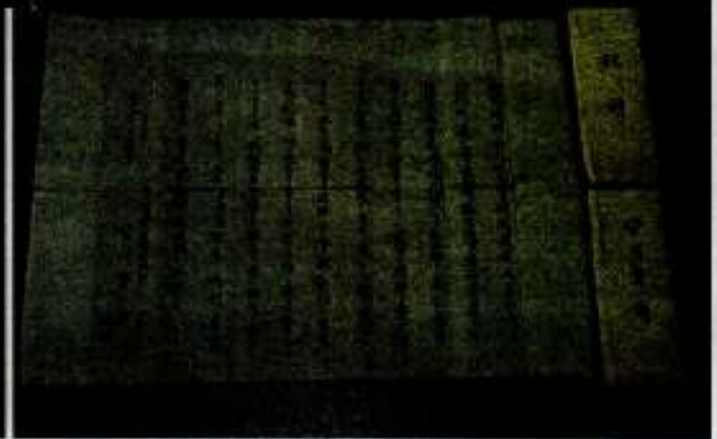
松永寺・鳥居強右衛門勝商公関係・八南小学校 略年表

西暦	元号	年	松永寺・鳥居強右衛門勝商公関係年表	八南小学校 年表
1540	天文	9	天文9年4月24日 鳥居強右衛門 生 (幼名 兵藏)	
∴	∴	∴		
1573	天正	1	元龜4年春3月 青龍山松永寺 開創 開基 太室契甫大和尚 弟子 難屋淳永和尚 住山	
1575	天正	3	天正3年2月 徳川家康 奥平貞昌に長篠城主に命ず 城兵500人	
			天正3年4月 武田勝頼 15,000人の軍勢を連れ 長篠に到着する	
			天正3年5月6日 武田勝頼 吉田城等を攻める	
			天正3年5月8日 長篠の戦い 武田勝頼 長篠城を囲む	
			天正3年5月10日 徳川家康 信長に長篠救援を依頼する	
			天正3年5月12日 武田勝頼 長篠城総攻撃をかける(12日~14日)	
			天正3年5月13日 織田信長 岐阜を突つ	
			奥平貞昌 軍議を開く	
			天正3年5月14日 鳥居強右衛門 貞昌より命を受け長篠城を脱出する 織田信長 岡崎に到着する	
			天正3年5月15日 鳥居強右衛門 奥平貞昌さらに家康・信長の前に出て長篠の状況を報告し、長篠に引き返す。 鳥居強右衛門 篠場野にて捕らえられる 鳥居強右衛門 城に向かって「援軍来る」と叫ぶ。	
			天正3年5月16日 鳥居強右衛門 篠場野にて磔刑される 鳥居強右衛門勝商 没 享年36歳(戒名 智海常通居士) 落合佐平次 鳥居強右衛門最後の姿を描く	
			天正3年5月18日 織田・徳川軍38,000人 設楽原に陣をしく	
			天正3年5月20日 織田・徳川方の酒井忠次等が鶯が巢砦を急襲する	
			天正3年5月21日 設楽原の決戦 天正3年6月 織田信長 貞昌に「信」の一子を与え「奥平信昌」と改名する	
			1576	天正
∴	∴	∴		
1832	天保	3	天保3年12月17日 本堂再建発始	
1841	天保	12	天保12年1月16日 本堂上棟(現本堂)	
∴	∴	∴		
1864	元治	1	元治元年正月6日 寺部與吉 生	
1872	明治	5	早川金作 生	学制発布とともに松永寺本堂に「育英館」として発足。市田・千両・八幡・平尾・財賀の5ヶ村にて
1874	明治	7		穂原学校と改称
1875	明治	8		平尾学校分立
1876	明治	9		市田学校と改称

1877	明治	10			市田学校より、八幡学校が分立。国分寺内に設置
1878	明治	11	明治11年1月21日	鳥居徳厚 生 (鳥居本家16代)	
1880	明治	13	明治13年3月	山門改築 (現存)	
				普門山観音寺並びに十王堂を当山に合併する	
1885	明治	18	明治18年5月15日	早川宅治 生	
1886	明治	19			平尾学校の分校になる
1891	明治	24	明治21年1月25日	12世 的翁和尚 西明寺へ晉住	
1892	明治	25	明治25年11月8日	13世 大乗和尚 住山	穂原村立市田尋常小学校
					平幡村立八幡尋常小学校
1894	明治	27		庚申堂改築・十王堂改築	
			明治27年7月	日清戦争	
1895	明治	28	明治28年3月		
			明治28年6月24日	鳥居義定 生 (市田鳥居本家10代)	
1901	明治	34		開山堂改築工事	
1902	明治	35	明治35年2月9日	開山堂上棟 (平成13年に再建)	
1903	明治	36	明治36年4月24日	14世 瑾山 生	
1904	明治	37	明治37年2月	日露戦争	市田尋常高等小学校と改称
1905	明治	38	明治38年9月		
1907	明治	40			八幡南部尋常高等小学校と改称
1909	明治	42	明治42年2月1日	市田総会にて、「烈士鳥居勝商顕彰碑」建設の議が決定する。	
			明治42年3月6日	赤塚山の上に鳥居烈士建碑基礎の標柱を立て、地鎮祭を執行す	
1911	明治	44			本校舎完成
1914	大正	3	大正3年4月17日	鳥居強右衛門勝商公木像開眼法要	
			大正3年10月18日	赤塚山 鳥居勝商顕彰碑除幕式	
			大正3年10月29日	玄関新築・炊事場方丈移築(現存)	
			大正3年11月12日	庫裡改築(現存)	
1915	大正	4	大正4年3月28日	鳥居強右衛門勝商公祭典	
1916	大正	5	大正5年2月13日	北白川宮成久王殿下御親拝、金一封下賜された	
			大正5年3月16日	鳥居強右衛門勝商公祭典	
1917	大正	6	大正6年1月17日	「烈士鳥居勝商生誕地 愛知県」標柱建つ	
			大正6年3月16日	鳥居強右衛門勝商公祭典	
1918	大正	7	大正7年3月16日	鳥居強右衛門勝商公祭典	実業補習学校併設
∴	∴	∴			
1925	大正	14			校舎増築
1929	昭和	4	昭和4年1月5日	鳥居 克 生 (市田鳥居本家11代)	
			昭和4年3月31日	衆寮建立(現存 弘法堂)	
1931	昭和	6	昭和6年1月26日	当山13世中興 大乗愚文大和尚 示寂 世寿66歳	
1935	昭和	10	昭和10年9月2日	鳥居吉之助 没 (市田鳥居本家9代)	
1936	昭和	11			講堂・校舎新築
1938	昭和	13	昭和13年4月25日	北白川宮殿下台臨記念碑 除幕式	

1941	昭和	16	昭和16年6月23日	鳥居徳厚 没 (鳥居本家16代) 享年64歳	八幡村南部国民学校と改称
			昭和16年10月13日	鐘樓堂上棟(現存)	
1942	昭和	17			校舎増築
1943	昭和	18	昭和16年2月23日	寺部與吉 没 享年80歳	豊川市立八南国民学校と改称
			昭和16年9月4日	梵鐘供出	
1945	昭和	20	昭和20年8月7日	豊川海軍工廠 空襲	豊川海軍工廠 空襲
1947	昭和	22	昭和22年8月14日	梵鐘再鋳・半鐘再造	学制改革により豊川市立八南小学校と改称
1948	昭和	23	昭和23年6月8日	早川金作 没 享年76歳	
			昭和23年4月23日	16世 鈞山 住山	
1949	昭和	24	昭和24年2月2日	15世 鈞山晋山・初会並授戒会	
1951	昭和	26	昭和26年10月20日	松永監住 雲峰弘源大和尚 示寂	
1952	昭和	27	昭和27年1月15日	16世 勝久 生	
			昭和27年4月16日	鳥居強右衛門勝商公375年祭典	
1959	昭和	34			校歌制定。それ以前は「鳥居強右衛門の歌」を校歌代わりにしていた。「鳥居強右衛門の歌」は校歌と併せて歌い継がれている
1963	昭和	38	昭和38年6月2日	鳥居 吉春 生 (市田鳥居本家12代)	
1966	昭和	41	昭和41年6月28日	鳥居義定 没 享年72歳(市田鳥居本家10代)	
1974	昭和	49	昭和49年2月22日	15世 鈞山和尚 西明寺晋住	
			昭和49年4月14日	早川 宅治 没 享年89歳	
1978	昭和	53		方丈改築	プール・体育館が完成
			昭和53年2月14日	16世 勝久 住山	
1981	昭和	56	昭和56年3月29日	16世 勝久晋山式 初会並因縁会	新北校舎完成
∴ ∴ ∴ ∴ ∴ ∴					
1988	昭和	63	昭和63年1月26日	17世 道久 生	
1990	平成	2	平成2年12月11日	書院上棟(新築現存)	
1991	平成	3	平成3年11月10日	書院・便所・物置等諸堂落慶法要	
1992	平成	4	平成4年3月5日	東三河曹洞宗青年会主催報恩授戒会厳修	
1993	平成	5	平成5年8月9日	当山14世 瑾山文英大和尚 示寂 世寿91歳	
1994	平成	6	平成6年11月1日	松永寺墓園造成	
1996	平成	8		松永寺門前駐車場整備	
2000	平成	12	平成12年10月12日	開山堂・位牌堂 上棟式	
2001	平成	13	平成13年5月26日	開山堂位牌堂再建落慶法要	
2003	平成	15		松永寺墓苑駐車場整備工事	
2006	平成	18	平成18年9月20日	釈尊合祀墓 開眼法要	
2008	平成	20		門柱・塙・参道舗装 整備工事	
2009	平成	21	平成21年5月5日	鳥居 克 没 享年81歳(市田鳥居本家11代)	
2014	平成	26	平成26年4月17日	鳥居強右衛門勝商公御木像安置 100年	校舎増築工事
			平成26年10月18日	烈士鳥居勝商碑 建碑100年	
2015	平成	27			

鳥居会 鳥居強右衛門顕彰碑 建碑関係書類(一部)の写真





鳥居強右衛門勝商公 御木像

御木像 高 125cm・横 115cm

大正3年4月17日 松永寺に安置して開眼法要を執行

この御木像は、紀州徳川頼倫公の南癸文庫に現存していた落合左平次家に伝わる旗指物をもとに、鳥居徳厚氏よりその写しを得て彫刻された

彫刻師 豊川町 神谷辰次郎 (辰三郎?)



烈士鳥居勝商生誕地 標柱石

大正6年1月17日 建立



北白川宮成久王殿下御台臨記念碑

昭和13年4月25日 除幕式

碑面 揮毫 旧忍藩 子爵 松平忠壽

碑陰 撰文 木村永八郎

碑陰 揮毫 鳥居勝商第16世 鳥居徳厚

北白川宮成久王 (きたしらかわのみや なるひさおう)

明治20(1887年)年4月18日 - 大正12(1923年)年4月1日没
日本の皇族である。階級は陸軍大佐。北白川宮能久親王の第3王子。

松平 忠壽 (まつだいら ただひさ) 奥平松平家14代

明治15年(1882年)1月 - 昭和57年(1982年)7月7日没
明治時代から昭和時代の華族、海軍軍人。海兵31期を卒業。忍藩最後の藩主松平忠敬の長男で奥平松平家14代当主。子爵。貴族院議員昭和57年、100歳で死去。



赤塚山 烈士鳥居強右衛門勝商公 顕彰碑

大正3年10月18日 除幕式

碑面 揮毫	旧中津藩主 貴族院議員 奥平昌恭
碑陰 撰文	陸軍編修官 旧中津藩士 横井忠直
碑陰 揮毫	大島徳太郎(君川)

奥平 昌恭 (おくだいら まさやす) 中津藩奥平家14代

明治10年(1877年) - 昭和23年(1948年)没
大分県中津 奥平伯爵家当主(1885-1947) 貴族院議員

横井 忠直 (よこい ただなお)

弘化2(1845)年1月8日 - 大正5(1916)年3月16日没
旧中津藩士 江戸時代末期~大正期の戦史研究家
安政3年(1856年)白田の成宜園で広瀬青都らに学び、文久元年(1861年)塾頭となる。のち中津で私塾・培養舎を開く。明治2年中津藩校教授となるが、京都の平田練胤について国学を習い、京都府庁の権大属、学務課長となった。京都府立中学校教師を兼ね、また私学・共学舎の設立、経史を教えた。13年東京に出て学友・秋月新太郎の推薦で陸軍省御用掛となり、参謀本部課僚、17年陸軍大学校教授を経て、23年陸軍編纂となり、戦史編纂に従事する。日清戦争では大本営部付、日露戦争では高州軍総司令部部付となる。長務の戦いや日清戦争・日露戦争の戦史、広間土王(374~412・高句麗王)碑文の研究は特に著名である。著書に「征西戦記」「日本戦史」がある。(20世紀日本人人名事典より)

大島 徳太郎 (おおしま とくたろう) 号 君川(くんざん)

生年月日不詳-昭和18(1943)年2月17日没
名徳太郎、君川と号し、壮年より愛知県庁に出仕し、専ら翰墨の事に当った。早くより恒川岩谷に師事し、退官後は書を以て立ち、多くの門人を養成して書壇の重鎮となつた。多くの記念碑、寺橋等を揮毫している

鳥居 徳厚 (とりい とくあつ) 鳥居本家第16代

明治11(1878)年1月21日 - 昭和16(1941)年6月23日没 享年64歳
埼玉県齊藤太郎兵衛利三男に生まれる。鳥居本家15代が早世したため、梯子の入夫となり、家督を相続し、書にも優れ、よく先祖の記録を保存整理し、初代強右衛門の顕彰に努める。東京豊島区で「鳥居強右衛門堂」の主人として筆局業を営む。寺部與吉・早川金作・早川宅次はじめ鳥居顕彰会との交流も深く、鳥居強右衛門顕彰碑建立にあたっては、顕彰会と東京の奥平家・松平家との仲介をして大変貢献している。大正3年10月18日の除幕式に参列。

鳥居強右衛門勝商公 辞世の句碑

碑面 揮毫 武蔵忍藩第5代(最後)藩主 子爵 松平忠敬

松平忠敬(まつだいら ただのり) 武蔵忍藩の第5代(最後)藩主・奥平松平家13代

安政2(1855)年7月14日 - 大正8(1919)年11月15日 享年65歳
出羽米沢藩主・上杉齊憲の六男。幼名は筑之助。明治2年4月、先代藩主の忠誠の養嗣子となる。養父忠誠の死去により家督を相続し、藩知事に就任、藩政改革を行なう。明治4年7月の廃藩置県で免官されて東京へ移る。明治17年1月、退官禁御用掛に就任する。同年7月、子爵となる。しかし、旧藩士の不正事件などがあってその地位を追われ、故郷の米沢に戻って中学校教師を務めた。明治28年に東京へ戻り、大正8年11月15日に65歳で死去した。





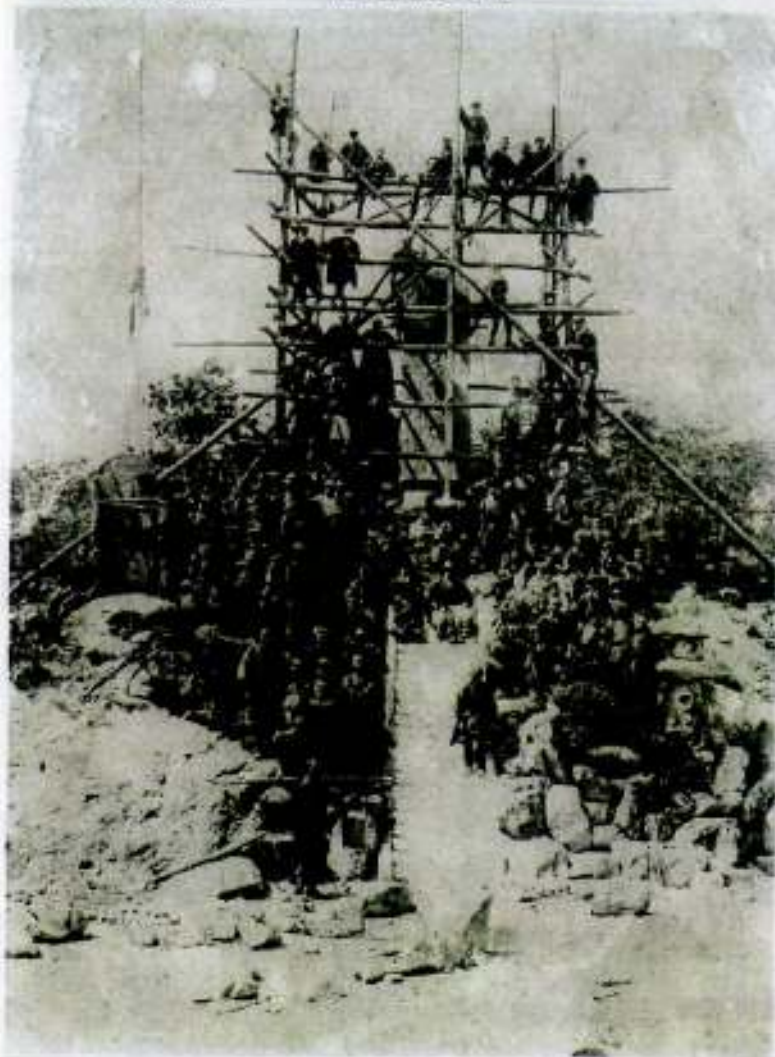
北國水田野田島上田

舊金山觀老門二



石塔寺大石塔

石塔寺大石塔



三州國土公堂

